

## 大会宣言（案）

2017年9月2日から3日にかけて、私たちは『付度』の闇に光を！権力のえこひいきをただす」というメインテーマで、第24回全国市民オンブズマン和歌山大会を開催しました。

権力への付度を許さず、公正な意思決定を実現させるためには、情報の公開が必要不可欠です。ところが、今回の調査で、本来公文書として扱われるべき電子情報が隠蔽されるおそれや、権力者を監視する（口利き）記録制度が十分機能していないことが明らかになりました。森友学園問題や加計学園問題、さらに南スーダン国連平和維持活動（PKO）日報問題における情報の隠蔽は、今後も起こりうることが判明しました。この状況をあらためるには、情報が民主主義の基礎となる国民の共有財産であることを今一度確認し、権力が都合のいいように操作できない文書管理・情報公開の仕組みを確立していくことが不可欠です。

政務活動費をめぐるのは、あいかわらず情報公開が不十分であることが明らかになりました。情報の非公開を背景に、全国各地で不正支出があとを絶ちません。ネット公開を進めると同時に、開示される情報の質を高めることが必要です。

私たちは、今回の大会報告や討議をもとに、電子情報を含む文書の管理と情報の公開を徹底させること、政策を歪める「口利き」や政務活動費の不正支出を監視すること、住民自治の実現へ向けた政治・議会改革を求めることを誓い、私たちの活動をますます発展させるため、以下の5点を大会宣言とします。

### 記

- 1 国・自治体に対し、公用サーバーで保存されている電子情報はもちろん、公用パソコンに保有されている電子情報はすべて組織共用文書とさせること
- 2 国・自治体に対し、電子情報の適正かつ明確な管理のルールを確立させること
- 3 国・自治体に対し、違法・不当を要件としない行政への働きかけを記録する制度を作らせること
- 4 地方議会に対し、政務活動費の領収書の原本提出ならびに、領収書だけでなく全活動関係文書のネット公開をさせること
- 5 住民自治の基礎となる町内会の民主化・会計透明化に向けて全国の情報を共有していくこと

2017年9月3日

第24回全国市民オンブズマン和歌山大会参加者一同